

広報担当が取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。
秘書広報課 ☎0040 ✉koho@city.makinohara.lg.jp



「侍ソーラン」を踊る勝間田小学校の5・6年生ら

歴史への感謝の気持ちを込めて

■勝間田城趾548年祭

今年で廃城から548年となる勝間田城趾（県指定史跡文化財）で11月10日、記念祭礼が行われ、勝間田区や市の関係者、勝間田地区とゆかりのある御殿場市民など50人以上が出席しました。

式典では、神事などが行われた後、勝間田小学校5・6年生による「侍ソーラン」を披露。さらに、同校4年生が企業と共同で制作した「きらりバッグ」の販売や、地域の人たちによるみかんや御朱印の販売も行われ、会場は大いに盛り上がりしました。

市の魅力をサーフィンと「食」でPR

■第1回まきのはらサーフ&ガストロノミーモニターツアー
まきのはらサーフ&ガストロノミーツアー誘致協議会は11月4日と5日、市内で第1回モニターツアーを実施しました。

市内の海岸線や静波サーフスタジアムなどを生かし、地元の豊富な食材を掛け合わせたツアーの造成を目的に、市内の観光関係者や飲食店経営者、行政など官民連携で構成される協議会が主催。全国から16人が参加し、サーフィンや独自のお茶づくり、釣りや魚の調理体験など、地元の食材や地域資源を生かしたプログラムを体験しました。



地元料理人の指導により釣った魚などを自ら調理する参加者

世界に笑顔届けるチアリーディングを

■チアリーディング世界大会に出場する市内の中高生が表敬訪問

藤枝明誠中学校・高等学校のチアリーディング「Daisies」に所属する市内の中高生3人が11月25日、杉本市長と橋本教育長を表敬訪問しました。

同チームは、9月に開催された全国大会「CDE Cheerleading Championship 2024」において優勝し、来年2月にアメリカ合衆国で行われる「2025 WORLD SCHOOL CHEERLEADING CHAMPIONSHIPS」に出場します。選手らは、「ミスをせず笑顔の演技を届けたい」「自分や周りの人のために1位を目指したい」と抱負を述べました。



トロフィーや「ポンポン」を持って笑顔を見せる選手ら

市内の絆づくり事業活動が表彰

■絆づくり事業を行う市内コミュニティ2団体が表敬訪問

絆づくり事業を行う市内コミュニティの2団体が日頃の活動功績を表彰され、11月5日に市へ報告に訪れました。

「絆づくり事業」とは、地域で抱えている課題を自分ごととして考え、自分たちで解決し、地域をより良くしていくことを目的とした事業です。

勝間田地区絆づくり事業が「あしたのまち・くらし活動賞『振興奨励賞』」、川崎地区絆づくり事業「全国花のまちづくりコンクール『奨励賞』」を受賞しました。

市多目的体育館で盛大に開催

■まきのはら産業フェア2024

市の産業にふれあい、理解を深めることを目的に「まきのはら産業フェア2024」が11月17日、市多目的体育館「GasOneアリーナ牧之原」で開催されました。

会場には市内の企業や団体、友好交流市町など100店舗以上が集結し、特産品の販売や日頃の活動を紹介しました。また、月3万円ビジネス第1・2期生が「わたしたちの3ビズマーケット」を開催。全6回講座の集大成として、地域に向けて仲間同士で知恵を出し合った店舗を出店しました。



3ビズマーケットではハンドメイド品販売や体験教室などを開催



市内外から2万2千人の来場者が訪れ、大いににぎわった



毎回好評の友好交流市町ブースでは各地の名産品を販売

文化の香るまちを目指して

■第19回牧之原市文化祭

第19回牧之原市文化祭が11月2日から4日までの3日間、静波体育館などで開催されました。

同体育館には、市文化協会会員をはじめ、市内の保育園・認定こども園、小中学校・高校、市民などによる絵画、俳句、書道、写真などの作品773点が展示され、それぞれの活動の成果が発表されました。

また、「茶会・茶手揉み実演、試飲」や「将棋大会」「おはなし会」が行われ、市内外から集まった大勢の来場者でにぎわいました。



静波体育館で展示作品を楽しむ家族



椋原高校生が監修した「福祉版ソナ」で防災について学ぶ参加者

地域で防災を楽しく学ぶ

■福祉防災講座「さ～！ぼうさい体験会！3rd」

福祉防災講座「さ～！ぼうさい体験会！3rd」が11月2日、相良原子力防災センター「サーボ」で開催されました。

障がいのある人にも対応した防災対策を推進するため、市障害者自立支援ネットワークが例年主催しているもので、障がいのある人やその家族、支援者、関係者など約90人が参加。避難所生活の体験、VR災害体験、防災ゲーム「福祉版ソナ」などが行われ、参加者は実際に災害が起きた時の対応や課題などを一緒に考えました。